

# 資料

水島廣雄の年譜、論文・著書等と、本書制作にあたって参考とした主な資料・書籍等を記載しました。

## 水島廣雄 年譜

一九二二年 四月一日、京都府加佐郡東大浦村字成生（現在の舞鶴市）に水島豊蔵とはまの長男として生まれる

一九二五年 三月、田井尋常小学校を卒業。四月、一二歳で明倫高等小学校に進学。舞鶴市内の親戚宅に下宿

一九二七年 一四歳。海軍軍人佐久間勉に憧れ、旧制・福井県立小浜中学校を受験、合格。通学のため遠縁の堀口家に下宿

一九二八年 四月、京都農林学校農業科に転入学

一九二九年 修学旅行で満州を訪れる

一九三〇年 三月、京都農林学校を卒業し、故郷成生に戻る

一九三一年 一月、一九歳。再び京都へ。恩師・藤島益雄が住む新日吉神社に下宿。学資を稼ぐため、アルバイトに明け暮れる日々を送る

一九三二年 四月、上京し、旧制・拓殖大学予科に入学。夢を抱き、休学して満州に渡るも、失意で帰国し復学

一九三三年 四月、旧制・中央大学法学部に入学。在学中三年間特待生を維持

一九三六年 三月、二四歳。中央大学法学部英法科卒業。成績優秀者として銀時計を贈られる。

四月、日本興業銀行入行、福島支店配属

一九三八年 四月、結婚

一九三九年 本店証券部信託課に異動、浅草に居を構える

一九四三年 九月、離婚。この頃、大阪支店に転勤

一九四五年 三月五日、上原平太郎の次女・静（二五歳）と結婚。大阪で新婚生活を始める

一九四九年 東京に転勤。世田谷区北沢三丁目に居を移す。日本興業銀行に勤務しつつ中央大学の講師となる

一九五二年 戦後、民間の普通銀行となった日本興業銀行が長期信用銀行の分類となる

一九五三年 学位論文として「浮動擔保の研究（フロートイング・チャージ）」を発表。一〇月、

「毎日学術奨励金」受賞（奨励金三〇万円）。一月、法学博士の学位取得

一九五四年 東洋大学法学部の独立のための法学部設立準備委員会に参画を要請される。同年、

司法学会にて「イギリス企業担保法」の講義を行う

一九五五年 七月、聖路加国際病院が前年から始めた人間ドックを初めて受診。「人間ドック同窓会」会長となり亡くなるまで務める

一九五六年 東洋大学法学部が文部省から認可され、同大法学部専任教授となる

一九五七年 一月、法務省と最高裁判所の委嘱により、イギリスに「浮動担保制度」の調査研究のため留学。帰国後、法制審議会委員。同年、東京・有楽町読売会館にそごう東京店が開店

- 一九五八年 三月、日本興業銀行退職。退職時の役職は特別調査室付考査役。四月、そごうに副社長として入社。四六歳。同年、法律第一〇六号「企業担保法」成立
- 一九六〇年 一月、そごう社長・坂内義雄が急逝。一二月に取締役会で後任社長に大和銀行出身の若菜三良が社長に就任するも、水島らが反発。大宅壮一に「財界の松川事件」と命名される騒動に発展する
- 一九六一年 一〇月、朝日麦酒社長山本為三郎の仲裁で若菜三良が退任、代表取締役副社長の水島が社長の職を代行することになる。同年、東洋大学理事に就任
- 一九六二年 四月、株主総会でそごう社長に就任。五〇歳
- 一九六三年 そごう各店舗を巡回。「第一次経営合理化策」計画書を全役員に配付
- 一九六五年 「第一次経営合理化」策のもと、社長就任四期目で黒字化を達成
- 一九六七年 三月、千葉そごうが千葉市内で最も大きな百貨店として開店。同月、神戸・三宮室町殖産ビル内にそごう神戸店が増床、開店。同年より中央大学、東洋大学、大東文化大学の各法人理事に就任する
- 一九七一年 七月、松山市駅に、伊予鉄道と合弁のいよてつそごう開店
- 一九七三年 一〇月、千葉県柏市駅前に、柏そごう開店。同年、ジャパンライン事件
- 一九七四年 一〇月、広島そごう開店
- 一九七六年 信託法学会設立に参画し理事に就任
- 一九七八年 九月、北海道初進出となる札幌そごうが札幌駅前に開店。一〇月、千葉・木更津そごう開店

- 一九七九年 九州初進出となる黒崎そごう開店。念願の「十合＝一〇店舗体制」を達成
- 一九八〇年 そごう創業一五〇周年。「二〇店舗・ダブルそごう」を目指す。同年、聖路加国際病院法人理事となり、二〇〇七年まで務める
- 一九八一年 一月、そごう創業一五〇周年記念事業として、「大ヴァチカン展」をそごう東京店で開催。全国八会場を巡回。三月、イタリア政府からコマンドール（芸術文化）勲章を受ける。四月、千葉県・船橋そごう開店
- 一九八二年 六月、ローマ法王から聖シルヴェステル勲章を受ける
- 一九八三年 四月一五日、「東京デイズニールランド」開業。人気アトラクション「It's a Small World」のオフィシャルスポンサーとなる。六月、長野そごう開店。一〇月、四国に二店舗目の徳島そごう、八王子そごう開店。同年、東洋大学を七〇歳で定年退官、名誉教授となる。中央大学講師も定年、最終講義を行う
- 一九八四年 一月、シンガポール開発銀行と合弁でそごうシンガポールの会社設立。一二月に初の海外店舗・そごうタイランドが開店。神戸店新館開館
- 一九八五年 五月、香港そごう開店。九月、百貨店業界初となる「財団法人そごう美術館」を併設した横浜そごう開店
- 一九八六年 一〇月、シンガポールそごうに隣接する二店舗目が開店
- 一九八七年 三月、大宮そごうが開店し、「レインボーの法則」による出店計画が完了。一二月、台湾の台北に太平洋そごうが開店し「二〇店舗・ダブルそごう」を達成

- 一九八八年 三月、ローマ法王から大十字勲章を受ける。一〇月、豊田そごう開店
- 一九八九年 九月、加古川そごう、一〇月、奈良そごう、多摩そごう、一二月マレーシア・ペナンそごう開店
- 一九九〇年 三月、呉そごう、インドネシアそごう、一〇月、西神そごう、一二月、タイにエラワンそごう開店
- 一九九一年 一〇月、川口そごう開店。「三〇店舗・トリプルそごう」達成
- 一九九二年 そごうバルセロナ、茂原そごう、柚木そごう開店
- 一九九三年 三月、ローマ法王庁から大聖グレゴリー勲章騎士団長位を受ける。同年、横浜そごうに「平木浮世絵美術館」開設
- 一九九四年 五月、株主総会にて岩村榮一が株式会社そごう社長に就任。水島は代表取締役会長となる。一〇月、柚木そごう閉店
- 一九九五年 一月一七日、阪神淡路大震災
- 一九九六年 そごう神戸店復興。そごうバルセロナ閉店。スペイン国王よりイザベル・カトリック女王エンコミエンダ勲章を受ける
- 一九九七年 二月、錦糸町そごう開店
- 一九九八年 四月、フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章を受ける。一〇月、主力行の一つである日本長期信用銀行破綻
- 二〇〇〇年 八八歳。四月、会長職を辞任、茂原そごう閉店。七月一二日、民事再生法適用を申請し事実上倒産。七月二六日、再生手続き開始

二〇〇一年 五月二五日、強制執行妨害罪で逮捕

二〇〇六年 八月、強制執行妨害罪で懲役一年六カ月、執行猶予四年の判決が確定。同年、そう・西武はセブン&アイ・ホールディングスの完全子会社となる

二〇一二年 四月一五日、「水島廣雄先生百寿をお祝いする会」がホテルオークラ東京別館で開催される。一月二六日、妻・静他界。戒名「寿泉院和敬静恭大姉」

二〇一四年 七月二八日、聖路加国際病院で心不全のため一〇二歳の生涯を終える。戒名「法泉院隆昌廣博居士」。遺骨は富士霊園に妻・静とともに納められるとともに、分骨され故郷の成生・西徳寺の水島家代々の墓にも納められる



水島廣雄 主な論文・著書等

著書

- 『家庭の法律百科』（共著／一九五〇年・日本評論社）
- 『信託法史論 1』（一九五八年・学陽書房）
- 『信託法史論 2』（一九五八年・学陽書房）
- 『我が法制における信託の観念』（一九六〇年・学陽書房）
- 『契約法大系 V 特殊の契約』（一九六三年・有斐閣）
- 『民法学辞典』（共著／執筆担当）『抵当証券／一般抵当／企業担保／浮動担保／証券抵当  
一九六三年・有斐閣』
- 『民法基本問題 150 講（総則・物権）』（共著／執筆担当）『総則・物権／譲渡担保 一九六六年・一粒社』
- 『株式会社辞典』（共著／執筆担当）『企業担保法／浮動担保／フローティング・チャージ／工場抵当／財団抵当 一九七〇年・同人社』
- 『二重信託』（一九七四年・学陽書房）
- 『特殊担保法要義 企業担保法制論綱』（一九七九年・八千代出版）
- 『増補特殊担保法要義 企業担保法制論綱』（一九九一年・八千代出版）

『Factory Hypothecation Law』（一九五五年・英文法会社）

論文・解説等

「所謂火災保険金増額（復舊）承認書の発行と質権者の地位」（『銀行研究』一九四〇年七月号・文雅堂銀行研究所）

「船舶公團と船主との船舶共有及び船主持分の抵當に就て（1）」（『海運』一九四九年一月号・日本海運集会所）

「製造中の船舶の抵當」（『海運』一九四九年一月号・日本海運集会所）

「船舶公團と船主との船舶共有及び船主持分の抵當に就て（2）」（『海運』一九四九年二月号・日本海運集会所）

「船舶公團と船主との船舶共有及び船主持分の抵當に就て（3）」（『海運』一九四九年三月号・日本海運集会所）

「船舶公團と船主との船舶共有及び船主持分の抵當に就て（4）」（『海運』一九四九年四月号・日本海運集会所）

「船舶公團と船主との船舶共有及び船主持分の抵當に就て（完）」（『海運』一九四九年五月号・日本海運集会所）

「國民と證券取引法」（『法律のひろば』一九四九年十一月号・ぎょうせい）

- 〔設備信託債務について〕〔中央大学新聞〕一九五一年四月二〇日号・中央大学新聞学会)
- 〔浮動擔保の研究 (FLOATING CHARGE OR SECURITY)〕(一九五三年・学位論文)
- 〔企業担保制度の制定と課題〕〔金融法務事情〕一九五四年二月・金融財政事情研究会)
- 〔企業担保について〕〔毎日新聞〕一九五四年八月六日・毎日新聞社)
- 〔時事研究会——『企業担保制度』について〕〔経済同友〕一九五四年九月号・経済同友会)
- 〔企業の担保〕〔法律のひろば〕一九五四年一〇月号・ぎょうせい)
- 〔各国における企業担保制度の概観〕〔法律時報〕一九五四年一〇月号・日本評論社)
- 〔企業担保法案の批判〕〔税経通信〕一九五五年一月・税務経理協会)
- 〔企業担保法案について 1〕〔法律時報〕一九五五年一月号・日本評論社)
- 〔企業担保法案について 2〕〔法律時報〕一九五五年二月号・日本評論社)
- 〔企業担保法案について 3〕〔法律時報〕一九五五年三月号・日本評論社)
- 〔企業担保法案としての英国浮動担保について〕〔私法〕一九五五年四月号・日本私法学会)
- 〔イギリス浮動担保の素描〕〔中央大学七十周年記念論文集〕一九五五年一月・中央大学)
- 〔企業担保の本質について〕〔商事法務研究〕一九五六年九月号・日本評論社)
- 〔イギリス讓渡抵当の変遷とその内容〕〔法律時報〕一九五六年一〇月号・日本評論社)
- 〔イギリス讓渡抵当の変遷とその内容 2 (完)〕〔法律時報〕一九五七年三月号・日本評論社)
- 〔英国におけるフローティング・チャージの登記制度について〕〔金融法務事情〕一九五七年六月号・金融財政事情研究会)

「企業担保」についての若干の考察」(『財政経済弘報』一九五七年七月号・財政経済弘報社)

「イギリス浮動担保の観念とその現況」(『金融』一九五七年七月号・全国銀行協会)

「英国の金融事情とフローティング・チャージの運営の実情」(対談／『旬刊商事法務研究』

一九五七年七月号・商事法務研究会)

「企業担保制度について」(『東京新聞』一九五七年一月四、五、六日・東京新聞社)

「企業担保法の創設について」(『経営セミナー』一九五八年一月号・経営書房)

「企業担保法について」(『総合法学』一九五八年・中央経済社)

「社債法の単独立法と推進」(『公社債弘報』一九六一年七月・公社債弘報)

「Japanese Investment Trust」(『Washington Law Review』一九六四年八月・Washington Law School)

「Unit-type Japanese Investment Trust」(『Washington Law Review』一九六四年八月・Washington Law School)

### 随筆・寄稿等

「教師のらくがき―友情」(『時事新報』一九五四年第二二五一五号・時事新報社)

「松本烝治先生の思い出」(『法律のひろば』一九五五年六月号・ぎょうせい)

「英国人」(『毎日新聞』一九五七年三月・毎日新聞社)

「本間俊一兄を想う」(『本間代議士の面影』一九五九年・経営書房)

- 「財界人の読書論」(『Books』一九五九年六月号・Booksの会)
- 「デパート学校二年生の弁」(対談／『産業と産業人』一九五九年九月号・産業社)
- 「法学士という名のサラリーマン」(『法学セミナー』一九五九年一〇月号・日本評論社)
- 「『吾等のそごう』に」(『デパート通信』一九六一年一月二五日号・デパート通信社)
- 「松野さんを偲ぶ」(『財界』一九六二年一〇月号・財界研究所)
- 「人間ドック同窓会挨拶」(『明るい窓』一九六四年六月・聖路加国際病院)
- 「企業担保法十年——制定当時の思い出」(『毎日新聞』一九六七年十二月一八日・毎日新聞社)
- 「可能性の追求」(『産業能率』一九六八年六月号・大阪能率協会)
- 「ひとりではなかった『人の間——無力な自分が知ったこと』」(『PHP』一九六九年六月号・PHP研究所)
- 「学問と人」(『大東文化』一九六九年十二月・大東文化大学)
- 「Use upon use こころ——二重信託」(『法学新報』一九七四年二月号・中央大学法学会)
- 「近代信託法理の継承」(『信託』一九七四年七月号・信託協会)
- 「私の本棚」(『財界』一九七九年四月号・財界研究所)
- 「そごう人に求められる『80年代の行動指針』」(一九八二年・そごう本社)
- 「経営綱領」(一九八七年・そごう本社)
- 「経営と心」(一九九〇年・そごう本社)
- 「田井小学校の頃」(『閉校記念誌・田井の教育と歴史』・一九九一年)

「恩師守屋善輝先生を偲ぶ」（『英米法学』一九九四年六月号・中央大学学友会学術連盟英米法研究会）

「私が深く感動し深く感銘した話題」（『経営コンサルタント』一九九四年一二月号・経営政策研究所）

「恩人中江静枝様」（『追想 中江静枝』一九九五年・中江利忠）

「特別手記 善悪は存知せざるなり」（『新潮45』二〇〇一年九月号・新潮社）

#### インタビュー等

「憂うべき受験万能」（『中央大学新聞』一九五四年一月一〇、二〇日号・中央大学新聞学会）

「十合への夢と情熱」（『デパートニュース』一九六二年五月三〇日号・ストアーズ社）

「そごう再建に成功した異色の学者社長水島廣雄」（『実業界』一九六二年一〇月号・実業界）

「そごう社長——水島廣雄が『児玉誉士夫のダイヤ贈呈問題』『ジライン事件』の真相を告白」（『経済界』一九七七年六月号・経済界）

「水島廣雄（そごう社長）が語る『鬼検事』河井信太郎の想い出」（『経済界』一九八二年一月号・経済界）

「そごう・水島廣雄、退陣の心境」（『財界』一九九四年三月号・財界研究所）

「中大顧問・水島廣雄さん 再び大学へ行くなら、やはり中央」（『週刊読売』一九九四年二月号・読売新聞社）

- 「前そごう会長・逮捕直前激白4時間 興銀との『密約』のすべてを暴露する」（『中央公論』二〇〇一年七月号・中央公論新社）
- 「水島廣雄・元そごう会長が語る『興銀の変節』」（『月刊経営塾』二〇〇一年一〇月号・経営塾）
- 「人は百歳まで元気でいられる」（『会報』二〇一三年四月・中央大学学生会千葉県支部）

評伝 水島廣雄 参考図書・資料等 第一部「評伝」執筆にあたっての主な参考資料

図書等

- 『そごう社史』（一九六九年・そごう）
- 『茨と虹と市村清の生涯』（一九六九年・尾崎芳雄／実業之日本社）
- 『侯野健輔の回想』（一九七二年・南日本新聞社）
- 『金閣炎上』（一九七九年・水上勉／新潮社）
- 『そごうの全貌』（一九八〇年・山森俊彦／ストアーズ社）
- 『不死鳥・そごうの経営』一九八一年・和田進／評言社）
- 『そごう人に求められる《80年代の行動指針》』（一九八二年・そごう本社人事労務部）
- 『経営綱領』（一九八七年・水島廣雄／そごう本社）
- 『そごう怒濤の大航海』（一九八八年・山森俊彦／ストアーズ社）
- 『法学部創設十五年 回顧と展望』（一九八九年・大東文化大学法学部）
- 『経営と心』（一九九〇年・水島廣雄／そごう本社）
- 『閉校記念誌・田井の教育と歴史』（一九九一年・舞鶴市立田井小学校）
- 『私の履歴書 昭和の経営者群像 1〜10』（一九九二年・日本経済新聞社）
- 『東洋大学百年史』（一九九三年・東洋大学）



- 『横浜流通戦争』（一九九三年・荻谷昭久／オーエス出版社）
- 『京都府立大学同窓会名簿』（一九九五年・京都府立大学同窓会）
- 『追想 中江静枝』（一九九五年・中江利忠）
- 『感謝して10年 新たななる大海への出発』（一九九五年・横浜そごう）
- 『夢、未だ盡きず―平木信二と吉岡隆徳』（一九九八年・辺見じゅん／文藝春秋）
- 『日録20世紀 1〜100』（一九九八年・講談社）
- 『正力松太郎―悪戦苦闘』（一九九九年・日本図書センター）
- 『新潮45（二〇〇一年九月号）』（二〇〇一年・新潮社）
- 『日本のカラクリ』（二〇〇一年・田原総一郎／朝日新聞社）
- 『神様の墜落（そごうと興銀）の失われた一〇年』（二〇〇三年・江波戸哲夫／新潮社）
- 『阿部君最後の手紙』（二〇〇四年・ユース会）
- 『挑戦 我がロマン』（二〇〇八年・鈴木敏文／日本経済新聞出版社）
- 『私のビジネス春秋』（二〇〇九年・大森清司／諏訪書房）
- 『横浜新都市センター30年史』（二〇一〇年・横浜新都市センター）
- 『タイムトラベル中大125』（二〇一〇年・中央大学）
- 『会報』（二〇一三年・中央大学学員会千葉県支部）
- 『田中角栄と稲葉修物語』（二〇一四年・工藤泰則／文芸社）

WEBサイト・定期刊行物（機関誌・新聞・雑誌等。複数の号を閲覧・参照）

『Webを知る“SOPHIA”』（上智大学WEBサイト）

『フリー百科事典 wikipedia 日本語版』

WEBサイト『そごうファイル「流砂の王国」』

『南甲』（中央大学南甲倶楽部）

『中央大学新聞』（中央大学新聞学会）

『中央大学学員時報』（中央大学学員会）

『日本百貨店協会会報』（日本百貨店協会）

『月刊TIME』（月刊タイムス社）

『毎日新聞』（毎日新聞社）

『読賣新聞』、『週刊読売』（読売新聞社）

『朝日新聞』（朝日新聞社）

『産経新聞』、『時事新報』、『産経時事』、『夕刊フジ』（産業経済新聞社）

『日本経済新聞』（日本経済新聞社）

『デパートニューズ』（ストアーズ社）

『デパート通信』（デパート通信社）

『PHP』（PHP研究所）

『金融ビジネス』（東洋経済新報社）

- 『日経ビジネス』（日経BP）
- 『週刊エコノミスト』（毎日新聞社）
- 『財界』（財界研究所）
- 『月刊経営塾』（経営塾）
- 『経済界』（経済界）
- 『明るい窓』（聖路加国際病院）
- 『社報そごう』（そごう本社）

資料・情報提供のご協力をいただいた機関・大学等

- 国立国会図書館関西館
- 上智大学
- 聖路加財団
- 大東文化大学
- 中央大学
- 東洋大学

※以上のほか関係者への取材インタビュー、追想録寄稿者からの情報提供により執筆・構成  
しました。